

[04]共同研究成果報告

<https://doi.org/10.15017/7169344>

出版情報：共同研究成果報告. 4, 2001-03. Research Institute for Applied Mechanics, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

発刊の辞

このたび、平成12年度応用力学研究所共同利用研究成果報告書（第4号）を発行いたしました。

全国共同利用研究所への改組に伴う応用力学研究所の共同利用研究は平成9年度からスタートし、4年が経過しました。現在のところ研究所の共同研究は、（1）外部の研究者が研究所の施設を利用して所内の研究者と共同して行う「共同利用研究」と、（2）応用力学に関するトピカルなテーマを主題として、所外ないしは所内の研究者が代表者となって組織する「研究集会」からなっております。4年の経過を経て共同研究および研究集会のいずれにおいても、件数とその内容において一つの傾向が定着してまいりました。

共同利用研究の成果は「成果報告会」において発表と討論をしていただいております。一昨年より「共同利用研究成果報告会」を、それまで毎年3月に行ってきた「応用力学研究所公開研究発表会」と合体させ、更に昨年は新たな試みとして、「共同研究」の中から各専門分野3～4件を選び、十分な時間をとってご報告いただくと共に、研究所の通常の研究活動報告にもより多くの時間をさいた「研究所フォーラム」として6月1日、2日の2日間に開催しました。今年は、ほぼ昨年同様の「研究所フォーラム」を6月7日、8日の両日に開催するはこびとなっております。これらの詳細につきましては研究所のホームページをご参照下さい。

平成12年度に申請していただいた共同利用研究に対しては、「共同利用委員会」においてなるべくこれらを採用する方向で審査いたしました。「継続研究」については一定の期間の歯止めなども設けておりますが、申請件数と申請金額の増加により、平成12年度においても、旅費と校費の両者におきまして申請額に対する充足率を一層下げる結果となっております。このような趨勢に鑑み共同利用研究費の増額が一層求められるところではありますが、昨今の状況から増額は極めて難しいものとなっており、限られた予算の有効使用どのよう行うかの知恵が求められているところです。どうか以上の諸点について御理解いただき、今後とも研究所の共同利用活動に対し御協力、御鞭撻をいただければ幸いです。

平成13年3月

九州大学応用力学研究所